

東北 学校給食やいらい限界 カット果物 6分の1 8分の1

新型コロナウイルス禍に伴う家計悪化とウクライナ危機による物価高騰で、東北の学校給食に影響が出ている。限られた予算内で栄養バランスを維持するために安価な食材を使ったメニューを増やすなど、調理の現場はやりくりで四苦八苦している。(報道部・武田俊郎)

コロナ 家計悪化 侵攻 物価が高騰

◇調整 1円単位 仙台市宮城野区の岩切小は単独調理校で、学校が食材の仕入れから調理まで行う。

スケールメリットがある給食センター方式より食材調達コストがかかり、献立担当の栄養教諭大泉由紀子さん(57)は「グラム単位、1円単位の調整で何とか対応している」と漏らす。例えば児童に大人気のラーメンは、具材の豚肉を通常のもも肉から肩肉や細切れ肉、ひき肉に変更。

これで1キロ当たり50~100円ほど費用を抑えたという。リンゴなどの果物は1人分を1個の6分の1から8分の1に縮小。単価が元々高いホウレンソウなどの葉物野菜は使用を減らし、ニンジンなど根菜中心のメニューを増やした。東北の主な市の給食費は表の通り。仙台は額を抑えてきたが、大泉さんは「ぎりぎりの状態。高騰が続けば努力だけでは対処できない」と嘆く。

＜東北主要市の学校給食費（一人当たり・年間）＞ 単位・円
総務省統計局小売物価統計調査（2022年3月）から抜粋

	小学校	中学校
郡山市	54,757	63,875
秋田市	52,751	63,648
仙台市	52,722	61,410
青森市	49,452	58,624
山形市	47,594	52,826
盛岡市	46,791	54,203
福島市	41,928	47,982

◇デザート削る 給食費が安い福島市は高値のタマネギや葉物野菜を減らし、比較的安価な冷凍野菜を増やすなどしてしのぐ。市教委は「このままでは果物やデザートを削らざるを得ない」と価格高騰の影響を懸念する。秋田市は全小中学校で9月分までの献立を決定済み。食材の調達計画を変えられず、「他市のようなメニュー変更による調整は難しい」（市教委）という。

コロナ下の家計悪化もあり、家庭に負担増を求めるのは容易ではない。文部科学省は4月、地方創生臨時交付金を学校給食の負担軽減にも活用できるとする通知を全国の自治体に出した。仙台市や秋田市などが交付金の申請を検討している。

大阪市はコロナ禍で減収が見込まれる子育て世帯の支援策として、2020年度に学校給食を無償化した。「感染の収束傾向が見られない」として21年度以降も続けている。

◇栄養不足心配 学校給食事情に詳しい東北生活文化大家政学部の嶋原美智子准教授（給食経営管理・栄養疫学）は「現場の工夫や努力に頼る状況は早晚、限界を迎え、子供の健康を維持するための栄養が不足する可能性が高い」と指摘。「給食費の値上げを含め、物価高騰下の学校給食の在り方について社会的な合意形成を急ぐべきだ」と訴える。
(5月27日(金) 河北新報新聞記事より抜粋)